

# ウルフガイ 登場人物の 座談会



平井和正



西城 ふざけやがって。おれを不愉快にさせる野郎はどいつもこいつも死刑だ。さあ、司会の奴は片づけちまつたら、おめえら好きなことを喋りな。遠慮はいらねえぜ。おい、速記のお嬢ちゃん。そう怖がらずにちゃんと仕事をしてくれよ。頼むぜ。だれか喋んなよ。速記者のお嬢ちゃんを失業させねえようにな。(よほど速記者は美人らしい) 神明 お前さんから先に喋ればいいじゃないか、西城。司会者を窓から放り出しちまつたんだから(九階の窓だぜ) 責任はお前さんが持てよ。

犬神明1 好きなようにしろよ。おれは今後薔薇造りに専念するんだから。

犬神明2 まあ、おれはどうせ登板の予定はぜんぜんなかったんだから、どうでもいいようなもんだね。

西城 あんな無責任野郎の追悼座談会(おいつ、追悼座談会だつてよっ)なんかわざわざやることはねえんだ。各自、好き勝手なことを喋ろうじゃねえか。じゃあ、取り敢えずおれから行くぜ。だいたいだな、あのトンチキな作者野郎は、この西城さんを描くには力不足だったのよ。日系アメリカ人のステーツに対する複雑なコンプレックスがちつとも書かれていねえ。いくら脱け出そうと反発しても、所詮は骨絡みになつてるアメリカンライフってやつをな。うまく書けねえもんだから、タフなだけの殺し屋にしちまいやがった。この西城さんとしてはだな、もっとメジャー級の作家に売り込むべきだったよ。何よりも書き込みが足りね

えよ。ヘタな作家にかかると災難だ。

神明 おれが聞いた話は違うぞ。西城が出しゃばりすぎるという抗議が、作者さん（ご冥福を祈ります）の手元に殺到したそうさ。たしかに「狼のレクイエム」では、西城グループの描写に比重がかかりすぎて、作品のバランスを崩しているよ。

西城 そんなことはねえよ。もつと書き込む材料はいくらもあつたんだがよ、ストーリーの進展に響くんで割愛したと聞いたぜ。おれとガキの犬神明は日系アメリカ人で、幼時体験にも共通項があるのよ。ボジとネガの関係にあるわけ、おれはおめえみたいなわき役とは違うんだよ。

神明 西城なんか早く消してしまえと読者の要望は厳しいものがあつたと聞いているがね。

西城 そんな読者はマンガでも読んでろ。小説を読む資格はねえ。

犬神明2 お宅はもともとマンガのウルフガイ出身じゃなかったかい？ マンガの時もだいぶ人気があつたそうじゃないか？

虎4 あたしに苛められる役だったからウケたのよ。初めはあつさりひねりつぶしてしまう予定だったんだけどね。悪運が強いつたらありゃしない。

犬神明2 虎4も読者には好かれたね。こんな気性の荒い乱暴娘が、意外にオセンチな内面性を要所所で覗かせたせいだろうな。もちろん、美人という作家先生の造形のお

蔭もあるが。

神明 可愛いなんてガラじゃないんだがね、アイタツ。

虎4 さあ、なんとでもお喋りよ。この爪が目に入らなければね。

その後発言者なし。

# ウルフガイ登場人物の座談会

デジタル版

発行日 2000年8月4日

著者 平井和正

イラスト 長尾 太

デザイン ルナテック

発行 有限会社ルナテック

〒125 0041

東京都葛飾区東金町3 13 6

info@ebunko.ne.jp

<http://www.ebunko.ne.jp/>

(C) KAZUMASA HIRAI、FUTOSHI NAGAO、LUN  
ATECH

本作品は著作権上の保護を受けています。本作品の一部あるいは全部について、無断で複写・複製・転載することは禁じられています。